

トピックス

著者	岩崎 純史, 川北 篤
雑誌名	東京大学理学系研究科・理学部ニュース
巻	52
号	2
ページ	12-12
発行年	2020-07-20
URL	http://hdl.handle.net/2261/00079416

山内薫教授が令和2年春の紫綬褒章を受章

岩崎 純史（超高速強光子場科学研究センター 教授）

本 研究科化学専攻の山内薫教授が、2020年4月29日の褒章発令において、学術・芸術・スポーツ分野で業績の著しい方を対象とする紫綬褒章を受章されました。

山内教授は、永年にわたって化学の教育研究に務められ、特に、構造化学、分子分光学、化学反応学に基づいた独創的な実験手法と理論手法を開発し発展させることによって、化学の分野における最も重要なテーマの一つである「分子の形が化学反応の過程でどのように時々刻々変化していくかを追跡する」ことを究明され、数々の学術的発見を通じて、基礎化学をはじめ、レーザー科学、原子分子光物理学の発展に貢献されました。特に、「光の場の中で原子・分子が如何にふるまうか」という問題に対して、分子内のクーロン場の大きさに匹敵する強度を持つ光の場の中において、分子の幾何学的構造が変化することや、分子内で特異な化学結合の組み換え反応が誘起され

ることなど、画期的な実験装置を次々と開発することによって実験的に明らかにされたばかりでなく、独創的な視点から理論研究を展開されました。そして、国際的なリーダーとして新たな学際学術研究分野「強光子場科学」を開拓され、現在のアト秒科学研究分野への発展に貢献されるとともに、高強度超短パルスレーザーを用いた超高分解能原子分子分光学の端緒を開かれました。また、山内教授は、光科学分野の産学間連携・大学間連携教育プログラム創設や学部教育の国際化を先導し、次世代を担う人材育成に多大なる貢献をされました。

山内教授の今回の御受章は、先駆的研究による基礎学術への国際的貢献と、優秀な若手人材を育成するリーダーシップが、高く評価されたものです。御受章を心よりお祝い申し上げますとともに、今後の益々の御活躍を祈念いたします。



山内薫教授

理学部ガイダンス2020実施報告

川北 篤（教務委員長／植物園 教授）

2 020年5月7日（木）に教養学部2年生向けに理学部全体ガイダンスを開催した。例年は駒場キャンパスで実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の予防のため、オンラインでの開催となった。

最初に、星野真弘学部長から挨拶があり、理学の魅力や意義、理学部の国際化への取り組みなどについて熱く語っていただいた。続けて、理学部における教育の特色や進学選択などについて筆者が説明した。次に、高橋嘉夫キャリア支援室長より、理学部・理学系研究科ではキャリア支援が充実しており、その結果、学部・大学院とも就職率がほぼ100%であり、安心して進学していただける旨の説明があった。

その後、理学部10学科の学科長の先生方に、

各学科を5分ずつで紹介いただいた。短い時間ながら、各学科の魅力や特色を最大限に語っていただき、進学選択を控えた学生たちに向けた、先生方の熱いメッセージが、学生の心に響いたのではないかと思う。質問は随時チャットで受け付け、プレゼンテーションと並行して質疑応答も活発に行われた。

オンライン開催のため当初は参加人数が予想できなかったが、ふたを開けてみれば常時500名ほどの学生の参加があり、総アクセス人数も700名近くに上った。例年の参加者数は約250名なので、結果的により多くの学生に理学部の魅力を伝えることができた。

今年度もぜひ多くの優秀な学生に理学部進学を希望してもらえることを願っている。



星野真弘理学部長による挨拶